



↑最新の添付文書
確認用二次元コード



2701

使用説明書

(使用前に必ず本使用説明書を読み、注意事項を守って使用して下さい。)

2022年4月改訂

動物用医薬品

貯法：遮光して2～10℃
有効期間：製造後1年5か月間

動物用生物学的製剤

劇薬 要指示医薬品 指定医薬品

承認指令書番号	元動薬第2904号
販売開始	1997年1月
再審査結果	2009年8月

日生研鶏コクシ弱毒3価生ワクチン (TAM)

(一般的名称：鶏コクシジウム感染症(アセルブリナ・テネラ・マキシマ)混合生ワクチン(シード))

【本質の説明又は製造方法】

本剤は弱毒アイメリア・テネラ、弱毒アイメリア・アッセルブリーナ及び弱毒アイメリア・マキシマをそれぞれ鶏腸管内で増殖させて得たオーシストを混合したものである。

静置すると無色透明の上清と少量の灰白色の沈殿を生ずるが、振り混ぜると灰白色半透明の液体となる。

【成分及び分量】

ワクチン1本(20mL、1,000羽分)中

鶏培養 <i>Eimeria tenella</i> , Nt-P110 株 (シード) オーシスト	4 × 10 ⁵ ~ 4 × 10 ⁶ 個
鶏培養 <i>Eimeria acervulina</i> , Na-P75 株 (シード) オーシスト	1 × 10 ⁶ ~ 1 × 10 ⁷ 個
鶏培養 <i>Eimeria maxima</i> , Nm-P102 株 (シード) オーシスト	2 × 10 ⁵ ~ 2 × 10 ⁶ 個
ソルビン酸	0.01g
エタノール	0.1mL
リン酸緩衝食塩液	残量

【効能又は効果】

アイメリア・テネラ、アイメリア・アッセルブリーナ、アイメリア・マキシマによる鶏コクシジウム症の発症抑制

【用法及び用量】

1. 飼料混合投与方法

本剤は3～6日齢の平飼いプロイラーひなを対象とし、その飼料に混合して1回投与する。本剤1羽分(0.02mL)をひなの日齢に応じた1日当たりの給餌量の約1/5～1/10量の飼料に混合する方法で、本剤の均一な混合飼料を調製する。混合飼料の約100羽分ずつを市販の給餌器(縦45cm×横60cmの平底型、面積0.27m²)に分配し、分配した羽数分に相当するひなに投与する。ひなが混合飼料の摂取を完了した後、残量の飼料を給与する。

2. 散霧投与方法

初生～4日齢の平飼い鶏を投与対象とする。本品20mL(1,000羽分)を5～20倍量に希釈し、輸送箱又は段ボール箱等に収容した1,000羽のひなに均一に1回散霧する。

【使用上の注意】

(基本的事項)

【守らなければならないこと】

(一般的注意)

1. 本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
2. 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
3. 本剤は効能・効果において定められた目的のみ使用すること。

(使用者に対する注意)

1. 事故防止のため、作業時には防護メガネ、マスク、手袋等の防護具を着用し、眼、鼻、口等に入らないように注意すること。
2. 作業後は、石けん等で手をよく洗うこと。

(鶏に関する注意)

1. 本剤の投与前には健康状態について検査し、異常を認めた場合は投与しないこと。
2. 鶏が次のいずれかに該当すると認められる場合は、健康状態及び体質等を考慮し、投与適否の判断を慎重に行うこと。
- ・発熱、異常呼吸音又は下痢など臨床異常が認められるもの。
 - ・他のワクチン接種や移動などによりストレスを受けているもの。
 - ・発育が悪く、明らかな栄養障害があるもの。

(取扱い及び廃棄のための注意)

1. 外観又は内容に異常を認めたものは使用しないこと。
2. 使用期限が過ぎたものは使用しないこと。

3. 小児の手の届かないところに保管すること。
4. 直射日光、加温又は凍結は品質に影響を与えるので、避けること。特に凍結させると効力が失われるので、絶対に凍結しないこと。
5. 使い残りのワクチン及び使用済みの容器は、消毒又は滅菌後に地方公共団体条例等に正しい処分、若しくは感染性廃棄物として処分すること。
6. 本剤の投与に使用した器具類はオルソジクロロベンゼン系消毒剤に2日間以上浸漬して消毒するか、又は熱湯に1時間以上浸漬して消毒すること。
7. 本剤の散霧投与に使用した輸送箱等は、焼却するか、又は上述した方法で消毒すること。また、輸送車両は荷台等を十分清掃、消毒すること。

【使用に際して気を付けること】

(使用者に対する注意)

1. 誤って眼、鼻、口等に入った場合は、直ちに水で洗浄やうがい等を行うこと。必要があれば本使用説明書を持参し、医師の診察を受けること。

本ワクチン成分の特徴

微生物名	抗 原		アジュバント	
	人獣共通感染症の当否	微生物の生・死	有無	種類
アメリカ・テネラ	否	生		
アメリカ・アッセルブリーナ	否	生	無	
アメリカ・マキシマ	否	生		

本ワクチン株は、人に対する病原性はない。

2. ワクチン瓶は破損するおそれがあるので、強い衝撃を与えないこと。
3. 開封時にアルミキャップの切断面で手指を切るおそれがあるので注意すること。

(鶏に関する注意)

1. ワクチン投与ひなの飼料には、本剤の効力が失われるおそれがあるので、投与3日前から、投与後少なくとも3週間は鶏コクシジウム症予防薬剤を混合しないこと。
2. 本剤を飼料混合投与する場合、投与をできるだけ均一にするため、ひなは投与前約半日間断餌すること。
3. 本剤を使用する予定の鶏群はあらかじめ清掃、消毒した鶏舎に導入すること。
4. 散霧投与後約30分間以上ひなを箱に収容した状態で放置した後、飼育施設内に解放する。

(取扱いに関する注意)

1. 本剤と飼料との混合又は水での希釈は投与直前に行い、混合飼料又は散霧用液の投与は速やかに行うこと。
2. 一度開封したワクチンは速やかに使用すること。使い残りのワクチンは雑菌の混入や効力低下のおそれがあるので、使用しないこと。
3. 飼料混合法で本剤を投与した後に日生研鶏コクシ弱毒生ワクチン (Neca) を使用することができる。この場合には、4日以上間隔をあけて投与すること。
4. 本剤を使用した鶏群の糞及び敷料は、鶏のオールアウト後焼却又は埋却するか、あるいは処理業者に委託する等適切に処理すること。
5. 使用後の鶏舎は、清掃後水洗し、通常の鶏舎消毒後にオルソジクロロベンゼン系消毒剤により消毒し、その後十分乾燥させること。

(その他の注意)

本剤はシードロットシステムにより製造され、国家検定を受ける必要のないワクチンであるため、容器又は被包に「国家検定合格」と表示されていない。

薬理学的情報等

臨床成績：3県4施設で、3～6日齢の肉用鶏を対象に臨床試験を実施した。ワクチンを投与した鶏群はいずれも異常が認められず、ワクチンの安全性が確認された。また、3施設のワクチン投与後4～5週及び7～8週のひなを用いてそれぞれ3株による実験感染試験を行ったところ、すべての投与群で発症防御効果が認められ、ワクチンの有効性が確認された。

薬効薬理：5日齢のSPF鶏群由来ひなにワクチンを混餌投与し、3週後に3株の強毒株による実験感染試験を行った。その結果、ワクチン投与群はいずれも発症予防効果が認められた。

包 装：1本 20mL (1,000羽分)

製品情報お問い合わせ先

日生研株式会社 製品係 〒198-0024 東京都青梅市新町9丁目2221番地の1
TEL 0428-33-1009、FAX 0428-31-6696

製造販売元：日生研株式会社 東京都青梅市新町9丁目2221番地の1

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発症に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、上記製品情報お問い合わせ先に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所 (<http://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>) にも報告をお願いします。